港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局　〒222-0032　横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324　FAX045-531-9561　　86 号

FB 港北区災害ボランティア連絡会　　2020 年 10 月

＊入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

http://kohoku-saibora.jimdofree.com

コロナ禍の避難を考える

改めて「自助・共助・公助」を考える

新型コロナウイルスの流行が収まらない中、九州で今年もまた大きな水害被害が出ました。台風 10 号は幸いにも気象庁が懸念したほどの驚異的な強さで日本上陸をすると言う最悪の状態は幸いにはずれましたが、「50 年に 1 度」との形容が頻発されるような雨の振り方が当たり前になりつつあります。そこから最近強調されるのが、自助として

1、ハザードマップをしっかり確認しよう

2、避難所に頼らず親戚、知人、ホテルなども活用しよう

と言う二点です。

ハザードマップの確認は重要ですが、洪水ハザードマップはあくまでも河川氾濫（港北区の場合は鶴見川、矢上川、早淵川）が起きた場合のみです。しかしもう一つ考えておかなければならないのが内水氾濫です。

内水氾濫はどこでも起きる

昨年の武蔵小杉のタワーマン浸水騒ぎは下水で処理しきれないほどの水があふれた結果でした。最近の雨の異常な降り方からすれば同じ事は港北区内でも起きると覚悟しなければなりません。大雨時には周囲の状況をきちんと観察することが求められます。

コロナ禍での避難所

コロナの流行に対応するため避難所はどこも収容人数を大幅に制限しました。その結果は当然のことですが入所を断られ他の避難所を探す人が多数出ることになりました。

そこで問題になるのが、避難所に頼らず親戚・知人・ホテルなども活用しようと言う行政の方針です。九州の水害ではホテル利用の被災者の姿も報道されましたが、この費用は当然個人負担ですから財力に余裕がなくてはできません。親戚を頼る方法も地方出身者が多く転居回数も重なる首都圏在住者ではなかなか難しいでしょう。知人宅となると一、二泊ならともかく長逗留は気兼ねが多くこれも難しいでしょう。

問われる公助

となるとやはり避難所しか行き場のない被災者が数多く発生する可能性が高くなります。しかし日本の避難所は 1923 年の関東大震災以来広い場所での雑魚寝が当たり前とされてきました。100 年間進歩していないので

イタリアの炊き出し風景

メニューは豊富で温かい食事が提供される。落ち着くととワイン付きにもなるとか。

す。その結果寝たきりによる生活不活発化病や肺炎の危険性、床からの振動や寒さによる睡眠不足など様々な問題点が指摘されています。段ボールベッドの導入も進められていますが、それは収容人員の大幅減と直結します。

85 号でもお伝えしたように、イタリアでは発災後 24 時間以内に移動式トイレ（車いす対応）、キッチンカー（1 台で 1000 食/1 時間可能）、そしてベッドが届きます。食事用と睡眠用のテントは別です。これらは政府が平常時から全国展開で備蓄しているから可能になるのです。

災害ボランティアも訓練された専門性の高いメンバーが登録されています。公助はこうあってほしいのです。

日本ではこのような重機による活動がまだボランティアベースで行われています。

各地の被害とボランティア活動

水害被害は人手の勝負です。それがコロナ禍でボランティアを県内に限ったため人員不足で 3 か月経った今でも手付かずの被災家屋があるそうです。

災害ボランティアセンターも人出不足となりました。それではどうしようもないということで兵庫県は災害ボランティア希望者に対し事前のＰＣＲ検査を計画しています。これも公助です。適切かつ迅速な公助がボランティア活動という共助を引き出します。　　（宇田川）

床下の泥出しは狭い場所での苦しい作業ですから、大勢で交代しての活動が必要です。

新しい防災担当のお二人です

防災担当の佐藤係長が転任となり、新しく元木係長がいらっしゃいました。災ボラ担当も新人の滝沢さんに代わりました。福本さんは総務課で防災担当は続くそうです。

港北区総務課防災担当　元木　拓也

今年度から港北区役所で防災担当の係長として赴任しました元木拓也と申します。以前は建築局建築防災課だったため、引き続き防災関連の業務を行うことになりました。建築防災課は、がけの防災、建物の防災、平成 30 年度の大阪府での地震以降に注目されたブロック塀の対策などを行っているところです。わたしは事業の実施ではなく全体をまとめる管理系の業務がメインであったため、今回区の防災担当として事業にメインで関わり、最前線にたって災害対応や区民の皆様からのご意見を聞きながら事業を進めることに新鮮な気持ちでいるところです。

わたしは大学や大学院で気象学を学んでいました。防災とは親和性があるかと思いますので、そこで得た知識・経験を生かして少しでも皆様のお役に立てればと考えています。研究自体は防災とは関係なく熱帯の高度 20 ㎞付近（対流圏と成層圏の境目付近）に発生する目に見えない雲の発生過程の研究でした。気象学というと気象予報が一般の方にはなじみがあるところで、わたしがやっていた研究は一体何に

役に立つのか？と思われる方もいらっしゃると思いますが、研究はこれまでわかっていないことに焦点をあてるものです。昔からわからないことを調べることは好きで、防災も常に新しい取組を行っていくの、チャレンジ精神をもって取り組んでいきたいと思います。

今年度は新型コロナウィルスというこれまでにない災害に見舞われています。区民の皆様、災害ボランティア連絡会の皆様と連携しながら、乗り越えていきたいと思いますので、引き続きご協力お願いいたします。

総務課庶務係防災担当　滝沢　元基

本年度より港北区総務課で防災担当をしております、滝沢元基（たきざわはるき）と申します。

私は２歳の時に、横浜市に引っ越してきて以来、ずっと横浜市で生活しており、幼稚園から大学まで、全て横浜市にある学校に通ってきました。なので、横浜市に対する愛着や思い入れは、人一倍強いのではないかと思います。しかし、横浜市の職員になってからは、まだまだ自分が知らない横浜を知る機会が多く、特に防災の観点では、日々勉強の毎日を過ごさせていただいております。港北区におきましては、区の真ん中を河川が横断しており、近年の異常気象の多さからも、水害のご心配をされている方が多いのではないでしょうか。それに加え、今年はコロナウイルスという未曽有の災害も発生しており、区民の方のご心配はさらに強まってしまっていると思います。そのような方々にはもちろん、港北区で生活しているすべての区民の皆様のお力になり、少しでも安心して毎日を過ごしていただけるよう、未熟者ではありますが、日々精進して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

QR コードを付けました。

題字の欄にＨＰの QR コードを付けました。
これでＨＰへのアクセスが容易になります。
試してみて下さい。

リレー連載 我が家の防災 ㉕

新堂さんちの防災対策

新堂泰江（社会福祉法人かれん）

実は一市民としては災害に向けた準備はほとんどしていません。動物を飼っていて、何かあってもそれらを引き連れて避難することなど到底できません。「死なば諸共」の覚悟です。ご近所の方々と何かあったら我々は梅林に集まろう、梅林にテントを張って過ごしたらなどと話し合っています。

多少の準備と言えるものは水です。賞味期限の過ぎたものも捨てずにトイレ流し用などのためにとっておき、空いたペットボトルにも水をためて、草花の水やりに使い、新しい水と交換していることくらいです。

それ以外のソフト面の準備といえば町内会の班長などの順番が回ってきたら面倒だけど引き受けて周辺の顔見知りを増やしています。

福祉の仕事をしていると災害が日中に起これば利用者さんのご家族が迎えに来るまで職場にとどまらなければなりません。状況によっては数日続くこともあるかもしれません。災害への備えは在宅中、外出中、勤務中を想定しなければならないのでしょうが勤務中は福祉施設としてのマニュアルや備えがあります。しかし個人としては前記の水のことと多少の防災グッズの用意だけです。

ところで最近は人間の数ほどペットがいるようです。災害時に備えて日頃からキャリーバックやケージを室内に設置して、犬猫の好きなおもちゃやケット類を入れ、普段からお気に入りの場所にしておき、そのまま避難できるようにすることを横浜市動物愛護センターが提案しています。「横浜市」「ペット」「災害」と検索すると「災害時のペット対策」という詳しいガイドラインを見ることが出来ます。また、横浜市は大規模災害時に備えて市

内数か所を動物救援センターとして利用するために覚書を取り交わしています。港北区は新吉田町の日本盲導犬協会神奈川訓練センターが候補地となっています。

防災に関して自慢できる用意は何もありません。お荷物な老人となっている事を思い知りました。

神奈川新聞より

川　新　聞　　第3種郵便物認可

生徒が発案 被災校支援

相模原市立田名中

熊本へボールや本発送

7月の豪雨で浸水被害を受けた熊本県芦北町の町立佐敷中学校の支援活動に、相模原市立田名中学校（同市中央区田名）が取り組んでいる。生徒の発案で20万円の募金が集まり、現地の要望に基づき流失してしまったサッカーボールなどを発送した。今月にはメッセージを書いたしおりを挟んだ書籍も送り、支援を通じた交流が始まっている。

（佐野　克之）

田名中の活動のきっかけは、豪雨被害直後に生徒たちが受けた道徳の授業だった。東日本大震災直後に小さな支援活動が広がっていったことを学んだ3年生から「豪雨被害を受けた人たちのために、自分たちにも何かできないか」との声が上がったという。

生徒が中心となって校内に募金を呼び掛け、3日間で約20万円が集まった。同町教育委員会とかねてつながりのあった教員が支援を打診すると、川の氾濫によって校舎1階が浸水するなど、大きな被害を受けた佐敷中を紹介された。

8月上旬にはオンラインの会議で双方の生徒が初めて顔を合わせた。佐敷中の生徒から「甚大な被害を受けたけれど、募金活動をしてくれて、ありがとうございます」と感謝の言葉が伝えられた。

今月4日には、生徒会と学級委員の生徒21人が小説や実用書など66冊の発送作業を行った。「がんばれ！遠くから応援しています」などと、生徒が応援のメッセージを書き込んだ手作りのしおりを挟んだ。

田名中3年で学級委員長の御手洗歩香さん(14)は学校近くの相模川が増水した昨年10月の台風19号の豪雨が忘れられないという。「私の家にも親戚が避難してきて、佐敷中の被害が人ごとには思えなかった。私たちの支援が少しでも力になれば」と話していた。

メッセージを書いたしおりを作る生徒たち
＝相模原市立田名中学校

ボランティア活動の基本

1、自発性
2、活動のタイミング
3、つながりを活かす
4、相手のニーズに応える
5、大勢を巻き込む

といったボランティア活動の基本が見える中学生の支援です。

こんな経験をした生徒が今後も様々な社会課題に積極的にかかわっていってくれたら世の中は良くなっていくでしょうね。大人も見習わなくちゃいけません。

（宇田川）

お詫びとお願い

コロナで活動を自粛していたこの４か月間、ニュースは発行する予定でしたが結局この時期となってしまいました。原稿をお寄せくださった総務課の元木さんと滝沢さんには早々と原稿をいただいたのにご迷惑をおかけしました。お詫びいたします。

しかしちょっと言い訳をさせてもらうと、やはり実活動がなく議論も交わされないと怠惰な編集長は頭が動きません。それを克服するのが定例会や役員会での熱心な議論です。

そこで会員の皆さんにお願いです。ボランティア組織はその参加者の声を吸い上げて初めて動けます。定例会やタスクには参加できなくとも意見を寄せることはできます。私たちのような地域防災ボランティアにとっては自分の生活からの防災への疑問や知恵を出し合うことが大切です。それを活かすことではじめて大事な家族の命と生活を守ることができるのです。メールで、定例会で、ちょっと顔を合わせたとき、いろいろな場面でご意見をください。それを紙面や活動に生かしていきます。皆さんの声を積極的にお寄せください。

編集責任者　宇田川

編集後記

☆ボランティア活動にも大きな影響を出したコロナ、災害は狙ったようにこんな時期に起きるのです。備えを固めましょう。
（宇田川）

☆政府のトップが政策理念として「自助・共助・公助」をこの順番で並べるのはいかがなものか。
（室伏）

☆仕方なくコロナ禍でのオンライン開催。何か月ぶりかでの対面役員会。私にはしっくりきました。
（付岡）